

海況速報

平成7年度 第2号(通算 No.44)
平成7年6月30日
北海道立水産試験場

内容についての問い合わせは
中央水試海洋部 0135-23-4020

5月下旬～6月中旬の海況

【日本海海域】

前回(4月)積丹半島西方はるか沖合にあった暖水渦(中心:200m層水温4°C以上)は北緯44度まで北上しました。この暖水渦の東側、雄冬岬北西沖に100m層水温9°C以上の暖水域が形成されています。また、岩内西方沖の東経139度20分に新たに暖水渦が発生しました(中心:100m層水温8°C以上)。この暖水渦の東側には、北西方向から100m層水温で見ると4°C以下の水が入り込み、顕著な冷水域が形成されています。さらに、北緯42度30分、東経138度20分にも小さな暖水渦(中心:100m層水温5°C以上)があるようです。

津軽海峡西方では、50m層水温7°Cの等温線が前年同期(平成6年6月)の時よりも約30海里沖合いに位置し、対馬暖流の幅が広がっています。

北緯44度30分以北の水温は、累年平均(*1)に比べ、表面で0~1°C高くなっていますが、50m層以深では0~2°C低いところが多くなっています。北緯42度30分~北緯43度30分では、表面で0~1°C低くなっていますが、50m層以深では-2~+3°Cと変化が大きくなっています。北緯41度30分以南では、表面で1~2°C低いところが多くなっていますが、50m層以深では0~1°C高いところが多くなっています。

余市における沿岸水温(旬平均)は、4月中旬以降6月中旬まで、平年値に比べて+0.6~+1.1°Cの範囲にあり、ほぼ平年並みで推移しています。

【道東太平洋海域】

北緯41度以北では、前回(4月)に比べ100m層水温5°C以下の親潮の面積が増えました。一方、襟裳岬南南東はるか沖合に暖水塊(100m層水温12°C以上)が北上してきました。そのため、道東沖を流れる親潮の親潮第1分枝の南下が抑えられた格好になっています。そして、この暖水塊の東北東方向の北緯40度30分、東経146度には別の小さな暖水塊(中心:100m層水温8°C以上)があります。この小さな暖水塊の東側から100m層水温3°C以下の親潮第2分枝が南下しており、この第2分枝の一部が暖水塊の時計回りの流れに引き込まれてこの暖水塊の西側を北上しています。また、襟裳岬東方では100m層水温5°C以上の暖水が親潮を横切るように沿岸近くまで入り込んでいます。

北緯41度以北の水温について見ると、累年平均に比べ、親潮の上流側の納沙布岬南方海域では各層とも0~2°C低いところが多く、水温がやや低い状態にあります。他の西側海域でも、表面で0~2°C高くなっていますが、50m層以深では0~2°C低いところが多くなっています。

【道南太平洋海域】

恵山岬以北の海域では、前回（4月）同様親潮に広く覆われています。しかし、浦河南西方向の観測線での100m層水温7°C線を見ると、今回は北端が北緯41度50分以北にあることから、津軽暖流は沿岸モードから渦モードへ移行しつつあるように見えます。また、襟裳岬南南西沖には、津軽暖流水起源と考えられる、100m層水温5°C以上の暖水が前回と同様に見られます。

水温について見ると、累年平均に比べ、津軽海峡東口の最高水温帶では-0.5~+1.5°Cの範囲にあり、ほぼ累年平均並みになっています。その他の海域では、浦河南西沖の一部の海域の100m・200m層で1~2°C高いところがありますが、各層とも0~2°C低いところが多くなっています。

【オホーツク海海域】

今期、前年同期（平成6年6月）には見られなかった、表面の冷水帶がすでに形成されていることが特徴となっています。

水温について見ると、累年平均に比べ、冷水帶では0~2°C低くなっていますが、その他の海域では、-0.5~+2°Cの範囲にあるところが多く、累年平均並みからやや高い状態になっています。

資料　〔観測期間〕

青森水試　（東奥丸）	平成7年6月1日～同6月2日	（東北日本海海域）
稚内・網走水試　（北洋丸）	平成7年6月12日～同6月14日	（オホーツク海海域）
釧路・中央水試　（北辰丸）	平成7年5月30日～同6月6日	（道東太平洋海域）
函館水試　（金星丸）	平成7年5月23日～同5月24日	（道南太平洋海域）
中央水試　（おやしお丸）*2	平成7年5月29日～同6月4日	（道央・道北日本海海域）

*1：平成元（1989）年～平成6（1994）年までの平均値を使用しました。

*2：北洋丸がロシア海域でロシアとの国際共同調査中のため、おやしお丸が北洋丸の代わりに道北日本海海域の定期海洋観測を行いました。







